

# 留学報告書

北海道教育大学函館校

地域協働専攻 国際協働グループ 4年

神内瑚伯

留学先：中国 天津外国語大学

## 1. 留学を振り返って

私は、2017年9月2日から2018年7月15日までの約10か月間、中国の天津市にある天津外国語大学で交換留学生として中国語を学びました。天津外国語大学には、数多くの言語を学習する中国人学生が通い、世界各国から留学生が集まる非常に国際交流の盛んな大学です。また、日本語学科の学生の日本語能力は非常に高く、日頃から彼らとの相互学習が中国語のレベルアップに欠かせないものとなっていました。また、天津外国語大学では様々なイベントが開催され、そこでも多くの異文化交流を図ることができ、充実した留学生活を送ることができました。

中国を訪れたことのない日本人の持つイメージは決して良いものではないと思います。実際に私自身、中国に対し強い関心を持っていながらも、初めて訪れるまでのイメージは良いものではありませんでした。初めて中国を訪れたのは今回の長期留学ではなく、約2週間の短期プログラムでした。そこでは、中国が予想以上に発展していることに驚きました。しかし、今回長期間中国で生活することで、中国人のフレンドリーで積極的な人柄や、中国の良いところを肌で感じることができました。

天津外国語大学は基本的に、2人部屋でランダムにルームメイトが決まります。私の最初のルームメイトはベルギー人でした。留学開始当初はお互い中国語のスピーキング能力が低く、英語を用いての会話でしたが、徐々に中国語での会話に切り替わりお互いの中国語能力のステップアップを実感することができました。生活するうえで考え方や生活リズムの違いで衝突することも時々ありましたが、本音でぶつかり合えたことでより深い関係を築くことができたと思います。中国人はもちろんのこと、欧米人との交流を通して、日本人の消極的な部分や自信の無さを強く感じ間違えることを恐れて発言できないことが語学学習において最も大きな壁であると感じました。

長いようで、短い今回の留学で多くのことを学び、得ることができました。中国に来る以前の自分は、人前での間違いを恐れ消極的になりがちで、常に誰かを頼るような性格でした。ですが、この留学を通して、語学を学ぶ上で間違いを恐れることが一番の壁になってしまうこと、積極的であればあるほど語学は上達することを学びました。また、日本でも自立心を持って生活してきたつもりでしたが、心のどこかで、「大学や先生、

周りがどうにかしてくれるだろう」という甘い考えが片隅にありました。しかし、全く知らない環境にたった一人で飛び込んで行ったことで、言葉も通じず頼る人のいない環境の中、自分のことは自分でどうにかする自立心、行動力を身につけることができたことを実感しています。この留学の経験、これからの人生に活かされるよう今後の残された大学生生活を大切に送りたいと思います。

## 2. 留学する学生へのメッセージ

天津外国語大学に来ている日本人は外国語大学の学生が多く、当然語学のレベルも自分よりもはるかに高かったです。私のようにほぼ初級からスタートの学生も多くいますが、せっかく現地で過ごせる一年という期間で、初級からスタートよりも日本でしっかり学び日常会話も少しできるレベルで現地に行ったほうが、留学の質も楽しさにも差があると思います。また、現在の中国はほとんど現金を使わず、携帯での支払いが主流になっており非常に便利です。ですが、それを利用するためには中国のキャッシュカードと携帯が必要になるので、事前に調べておくことが重要です。学費が免除されることと中国の物価の安さもあり、一年間の留学費用は日本で暮らす1年間の生活費よりも安かったです。こんなにも安く（英語圏等と比べて）、一年間の留学を経験することはなかなかできないと思います。今しかできないこと、将来何がしたいのか、しっかり考えた上で自分にとってより良い選択をしてください。

## 3. 留学中の写真



① クラスメイトとの集合写真



② 学校祭



③ 日韓交流運動会